

お話を伺いました



(左から)多摩大学 経営情報学部 教授 長島剛さん、同学部 学生 入澤凜さん、八木海仁さん、趙彦明さん、京王観光株式会社 地域コミュニケーションチーム 地域交流推進ディレクター 城戸聡さん、同チーム課長補佐 佐藤雅一さん

タマリズムプロジェクト

2021年度に多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト(旧名称)として発足した、継続性のある地域活性化を目指し産官学連携で実施する都内初のプロジェクト。「郊外住宅地を有する都市における課題を踏まえた観光まちづくり」をテーマに、地域の大学生からアイデアを公募し、自治体(今年度は多摩、稲城、八王子、日野、町田の5市)・観光協会・地元事業者と連携して次年度以降の実用化を目指す。

④ 審査・最終発表会(ドラフト会議)



① 企画提出



タマリズムプロジェクト



③ フィールドワーク



② ブラッシュアップ・マッチング

継続性のある地域活性化を目指して

産官学連携でつくる

マイクロツーリズム



2020(令和2)年からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大きく変化した観光関連産業。人々の行動や生活の制限が緩和された今日に至るまでの約3年で、自宅から1〜2時間程度の地元や近隣地域を観光する「マイクロツーリズム」の考え方が全国的に広まりました。地域の魅力を掘り起こし経済を活性化させる手段として、多くの自治体や企業がマイクロツーリズム推進の取り組みを実施しています。

共創の基盤となる地域への視点を育むプラットフォーム

多摩地域では複数の自治体と大学、企業の連携により、地域経済の振興と継続性のある地域活性化を目指す「タマリズムプロジェクト」が立ち上がり、今年で3年目を迎えています。産官学の連携で推進するプロジェクトの仕組みづくりと地域への影響について、事務局として学生をサポートする京王観光株式会社にお話を伺いました。「コロナ禍と今後を見据え、地域に貢献しながら、地域と長く共に仕事ができる仕組みをつくりたい」と考えました。京王観光の地域交流推進ディレクターである城戸聡さんは、プロジェクト立ち上げ当時を振り返ります。プロジェクトでは地域課題を踏まえたマイクロツーリズムの企画を学

生から公募し、自治体や観光協会、地元企業などがともに企画の事業化を目指します。学生にとってはコロナ禍で失われたフィールドワークの場であり、地域社会で力を発揮できる貴重な機会です。これまでに、多摩市内の公園や散策路のスポットを制限時間内にまわる企画「たま公園ロゲイニング(※1)」や、「都立小山内裏公園でのバリアフリーサンクチュアリ(左下コラム参照)」など、学生らしく斬新なアイデアを元にした企画がすでに10件以上、現在実施中または準備中です。「観光まちづくり」をテーマとした今年度は、東京工科大学や明星大学、ホスピタリティツーリズム専門学校など、11の大学や専門学校などから29チームが参加。東京観光財団や町田市観光コンベンション協会などの観光関連団体、地元企業とのマッチング会や一次審査会、実証実験(フィールドワーク)期間を経て、収益性の確保や地域の魅力を掘り下げた内容になっているか、ニーズの把握など様々な面から企画をブラッシュアップし、12月に実施される最終審査会に臨みます。最終審査会は「ドラフト会議」とも呼ばれ、自治体や企業などが可能性を見出した企画に投票し、事業化に向けて検討していきます(右下コラム参照)。「大学が専門性を活かして地域課題を解決する第一歩として、また自治体や企業の職員が地域のことを自分ご

ととして捉え、共創(※2)のきっかけになるプラットフォームとして機能していければ」と、多摩大学経営情報学部ながしまぜみの長島剛教授は言います。コンテスト全体の企画運営を担う同ゼミでは、学生が京王観光とともに多くの大学や自治体との連携を視野に入れた仕組みをつくってき

ました。3年目の現在、タマリズムプロジェクトは5つの自治体が参画する大きなプロジェクトとなっています。地域課題に対して様々な領域がつながり合い、知恵を持ち寄り、ともに考えることで共創は生まれます。マイクロツーリズムを通じた共創の仕組みをつくるタマリズムプロジェクト。この仕組みを育てていくことが、持続的な地域活性化へと結びついていきます。

※1:地図とコンパスを使い、山野に設置されたチェックポイントをできるだけ多くまわり、制限時間内に得られた点数を競う野外スポーツ
※2:異なる立場や業種の人・団体が協力し、新たな商品・サービスや価値観などをつくり出すこと

学生が生み出し連携で育てる
マイクロツーリズム



2021(令和3)年度の東京都立大学の学生チームによる企画「都立小山内裏公園のバリアフリーサンクチュアリ」が、東京都公園協会とのタッグで実現化しました。ハンディキャップを持つ来園者は、園内のサンクチュアリ(動植物保護のために通常非公開で舗装されていない区域)の散策が難しいという課題に対し、舗装路にミニチュア版「サテライトサンクチュアリ」を設置(左上画像)。また、この取り組みに別チームによる企画「たまころりんプロジェクト」も組み合わせ、飲食店のクーポンなどが当たるカプセル販売機を駅前の商業施設に設置(右上画像)。これによりサンクチュアリや公園の散策と周辺地域の周遊観光を促す企画となり、学生のアイデアがさらにブラッシュアップされて事業化した事例となっています。

2023年度 タマリズムプロジェクト最終審査会

4月のキックオフからスタートし、「観光まちづくり」をテーマに連携団体などとともに検討や改良を重ねて練り上げた、29チームの企画の最終発表会(ドラフト会議)。コンテスト形式で表彰団体を選定するほか、連携したい企画への投票も行われます。地域の事業者や商工団体、NPO団体などの参加が可能。詳細はQRコードからHPへ。

目 2023年12月15日(金)午後(時間調整中)
場 東京たま未来メッセ
料 無料 申 問 https://tamarism.com



地元の事業者や商工団体、NPO団体などが多数参加(上)。交渉権の投票(下)。